

第2回日中韓3ヶ国ジオサミット参加報告

山岡香子¹⁾・内田利弘¹⁾

1. はじめに

日中韓の地質調査所(韓国地質資源研究院(KIGAM : Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources), 中国地質調査局(CGS : China Geological Survey), 産総研地質調査総合センター(GSJ : Geological Survey of Japan))間の研究協力を推進するとともに, 東南アジアの研究協力を牽引し, さらに3機関の世界的なプレゼンスを向上させることを目的として, 2015年にKIGAMの呼びかけにより, 3機関の長が出席する定期的な会議の開催が合意されました。会議の名称はTrilateral GeoSummitとし, 2年毎に開催することとなり, 第1回会議は2015年4月に中国・北京で開催されました。今回の第2回会議はKIGAMのホ

ストにより, 韓国・済州市で開催されました。事前の協議により, 研究協力が見込まれるテーマとして, 活断層, 沿岸域地質, 地質情報GIS, ガスハイドレートの4つが提案され, 技術セッションが開催されました。各技術セッションでは, 各機関が研究概要を紹介するとともに, 今後の具体的な協力活動について議論を行いました。

2. 開催概要

会議は2017年6月20日に, 韓国・済州島済州市のMaison Glad Jeju Hotelにて開催されました(写真1~3)。出席者は全体で79名で, 内訳は以下の通りでした。

- ・韓国(48名): KIGAM Joong-Ho Synn 院長ほか 47名,



写真1 会議の様子。(KIGAM 提供)



写真2 3機関の代表。左から Zhang Hongtao 参事官, Joong-Ho Synn 院長, 矢野雄策総合センター長。



写真3 全体集合写真。(KIGAM 提供)

1) 産総研 地質調査総合センター研究戦略部

キーワード: ジオサミット, 国際協力, 地球科学

貿易産業エネルギー省 1 名

- ・中国 (17 名) : CGS 16 名, 中国国務院 Zhang Hongtao 参事官
- ・日本 (11 名) : GSJ 矢野雄策総合センター長ほか 11 名 (写真 4)
- ・日中韓 3 ヶ国協力事務局 (TCS: Trilateral Cooperation Secretariat, 韓国ソウル) : Yang Houlan 事務局長ほか 3 名

(1) 開会式及び代表挨拶

開会式では, KIGAM の Joong-Ho Synn 院長による開会挨拶の後, CGS を代表して中国国務院 Zhang Hongtao 参事官の挨拶, GSJ の矢野雄策総合センター長の挨拶がありました. 続いて, TCS の Yang Houlan 事務局長が, 日中韓の協力状況について紹介し, 3 ヶ国ジオサミットへの期待を述べられました. その後, 各機関についての現況紹介が CGS, KIGAM, GSJ の順で行われました.

(2) MOU 調印式

会議の中で, GSJ-CGS 間及び CGS- 韓国ガスハイドレート研究組間の MOU 調印式も行われました. GSJ-CGS 間の MOU は, 2010 年以降, 日中両国の政治関係悪化の影響を受けて途切れていましたが, 第 1 回日中韓 3 ヶ国ジオサミットで連携強化の必要性が確認され, 今回の MOU 締結に至りました (写真 5).

(3) 技術セッション

各技術セッションでは, 3 機関からの発表 (各 20 分) と研究協力に関する議論 (45 分) が行われました (写真 6). 各セッションの合意事項は以下の通りとなりました.

【活断層セッション】

- ・各機関が研究協力のためのチームを設置し, 日中韓の主要な活断層 (中国 Tan-Lu 断層, 韓国 Yangsan 断層, 日本の中央構造線など) を対象とする研究と地震災害リスクに関する共同研究を立案する.

【沿岸域地質セッション】

- ・2 年毎にワークショップを開催する.
- ・若手研究者の交流を促進する.
- ・CCOP (東・東南アジア地球科学計画調整委員会) における沿岸域地質に関する協力活動を共同で進める体制を検討する.

【地質情報 GIS セッション】

- ・地質情報の管理と GIS 上での情報の統合に関する情報



写真 4 GSJ からの参加者. (KIGAM 提供)



写真 5 CGS との MOU 調印.



写真 6 技術セッションの様子. (KIGAM 提供)

交換を促進し, 共同研究の立案を検討する.

【ガスハイドレートセッション】

- ・KIGAM と CGS 間で, 人材交流や定期的なワークショップ (2 年毎) を行う.

この他, GSJ は参加しませんでした, 3D 地質モデリングに関するワークショップも同時に行われました. 技術



写真7 ポスターセッション。(KIGAM 提供)



写真9 萬丈窟。中央は Jeon 博士。



写真8 議事録への署名。(KIGAM 提供)



写真10 城山日出峰。

セッションと関連してポスターセッションも開催され、各国の研究者が議論を深めました(写真7)。

また、技術セッションと並行して、各機関代表の意見交換会が行われました。意見交換会では、ジオサミットで合意された研究協力を推進していくことや、今後の CCOP や IGC(万国地質学会議)などの国際会議で協力していくことが確認されました。

(4) 閉会式・ウェルカムディナー

最後に会議のまとめがなされ、議事録に各機関の代表が署名しました(写真8)。そして、KIGAM の Joong-Ho Synn 院長による閉会の挨拶の後、ウェルカムディナーが開催されました。

(5) 地質巡検

翌6月21日は、済州島の火山活動に関する地質巡検が行われました。済州島では、漢拏山(ハルラサン)、城山日出峰(ソンサンイルチュルボン)、萬丈窟(マンジャングル)が世界自然遺産に指定されており、2010年に島全体

が世界ジオパークとして認証されています。一行はまず、萬丈窟を訪れ、済州ジオパークの Yongmun Jeon 博士の説明を受けながら、溶岩流によって形作られた様々な造形を観察しました(写真9)。続いて、城山日出峰に移動し、山頂の展望台から5,000年前の海底噴火により形成された火口を一望しました(写真10)。その他、済州世界遺産センターや済州石文化公園などを訪れ、済州島の形成史や火山岩と文化の関係について理解を深めました。

4. おわりに

今回の第3回日中韓ジオサミットは、2019年7月に日本で開催される予定となっています。今後3ヶ国がますます研究協力を深め、次回の会議ではより活発な議論が展開されることが期待されます。

YAMAOKA Kyoko and UCHIDA Toshihiro (2017) Report on the 2nd Trilateral GeoSummit.

(受付：2017年9月6日)